

が1 m位となり突きあたる。左側溶岩は黒灰色の4～5 mの壁となり、左側の壁では、はっきりしたスリッケンサイドがみられる。スリッケンサイド上の断層条線は、20°ほど東に傾いているのが確認できる。断層は左ずれ断層である。右側底部は、大小の岩石と火山灰からなり、水流によってけずられている。この場所は、富士川断層の延長線上にあたる。断層は富士山二子山付近を通って山梨県側に抜けているので、今後の課題は山梨県側で断層を確認することと、微小地震観測網を整備して断層の構造を解明することであると説明があった。

富士宮東高校でも光波測量を用いて観測が始められている。正面玄関屋上にある観測室では、富士川断層を横断する測線3箇所を含む6箇所との距離を測定しているが、途中の風、温度差、スモッグ、霧などの影響が強く表われるので、補正に苦労しているとの説明があった。見学後質問に入り、今回の巡検を終えた。

えんそくの地学 一静岡県の地学案内一 発刊に当って

編集委員長 木 宮 一 邦

本会創立20周年記念出版物である「えんそくの地学」は、昭和55年7月の第1回編集委員会より約2年半の歳月を経て、この度無事出版することができた。ここに、その経過、内容などについて簡単に述べ、私の任務を終えたいと思う。

この本は、遠足や野外教育の場に、自然観察の機会を取り入れてもらうことを主目的にして作られたもので、静岡県内32コースについての地学案内が書かれている。編集に当たっては、原稿内容の平易化に一番力を注いだ。さらに、やさしく楽しい印象を与えるため、「ちがくの広場」と名付けた24のカコミや、マンガカットを随所に入れた。表紙カバー見返しの図とともに、編集に苦労したところである。10周年記念出版物である「東海自然歩道の地学案内」より約50ページも厚くなり、質、量ともにさらに充実したものになった。築地書館の「日曜の地学」と比べても、決して恥ずかしくない出来ばえと自負している。

コースの選定、執筆者への依頼など編集委員の方々には大変なお骨折りをいただいた。その結果、当初の予期以上の原稿が集まり、その一部は次回にまわさざるを得なかった。折角原稿を提出したにもかかわらず、次回にまわされたの方々には、編集委員長として心からおわびしたい。数年後には、ぜひ続編が出版されることを期待したい。

このような、立派な本を出版することができたのも、会員の皆様のお陰ですが、本を出版しただけでは、我々の真の目的は達成できません。今後は、真の目的である、地学教育の普及を計るため、より多くの人に、実際に野外で活用していただかなければなりません。定価も安くつけましたので、会員の皆様が一冊ずつお買上げいただくことはもち論、職場の方々や知り合いの方々に御紹介くださるようお願いいたします。

〔B-6版、249ページ、定価1,200円、会員特価1,000円、購入方法は本会または支部役員にお尋ね下さい。〕